

南小だより さわやかなあはつ きれいな学校

学校教育目標

心豊かにたくましく生きる児童の育成

かしこい子

やさしい子

たくましい子

平成26年6月30日

7月の生活目標

『そうじをしっかりとしよう』

第4号

川越市立高階南小学校

フレンドリー活動 楽しみながら心を育てる

本校の特色の一つである活発な「特別活動」の中でも、特に力を入れている取組が、毎月2回、木曜日の朝8時20分から行われている「フレンドリー活動」です。6年生を中心に1年生から6年生までが6～7人で班を作り、運動場での鬼ごっこや教室でのゲームなどを楽しみます。異学年との交流を通して、思いやりの気持ち、互いを認め合う心を育て、高学年の児童に、リーダーシップを発揮させることで、年長者としての自覚や責任ある態度の育成を目指しています。



班編成のために、教師は何度も会議を開き、兄弟姉妹関係に配慮しながらメンバーを決めていきます。各班の6年生が班長となり、全校をA～Eの5つに分けたグループの代表を大班長とします。全員の教師が5つのグループのいずれかに所属し、一緒に活動します。

運動場での鬼ごっこ・ドッジボール、長縄跳び、教室でのトランプ遊び・ハンカチ落とし・フルーツバスケット。朝の学校に、子どもたちの歓声が響き渡ります。昔は近所の子どもたちが、年上のお兄さんお姉さんとともに、自分たちで気の合う仲間を集め、遊んだものです。時にはけんかをしたり助け合ったりしながら、集団としてのルールや仲間作りの仕方を学んでいきました。



現代の子どもたちは、放課後の習い事や交通事情から、自然発生的な異年齢の集団が折り合いを付けながら遊ぶということがなかなかありません。学校の「特別活動」の一環として、計画的に位置付けられた活動ではありますが、本校の「フレンドリー活動」の意義は大変大きいのではないかと思います。

子どもたちのやり取りをよく見ていると、あることに気付きます。それは「平等」に関する考え方です。ある子どもは、年齢や性別など一人一人の違いを考えず、一律に扱うことを平等だと主張します。ある子どもは、一人一人の違いを考えて、結果として、あえて異なる扱いや基準を当てはめることを認めようとする平等です。

どちらが良いかを安易に論ずることはできませんが、子どもが異年齢の中で学ぶことの本質がこのあたりに潜んでいるような気がします。

知らなかったことを知ることができる。わからなかったことが分かるようになる。できなかったことができるようになる。座学での学びとともに、実体験を通して学ぶことをこれからも大切にしていきたいと思えます。

【みんな頑張っています。】



5年生 国際交流



花の子 乳搾り体験



トイレ清掃ボランティアの皆さん



6年生 水泳指導